

平成28年度和歌山県文化奨励賞

こにし こうた たいほう
小西 浩太(号 泰鳳)

住 所 和歌山県海南市
出 身 地 和歌山県海南市
生 年 昭和55年

◎ 業績及び経歴

昭和55年下津町（現海南市）に生まれる。幼少の頃から書の道に励み、先人の墨蹟から要諦を学ぶ。平成8年に下津町教育委員会からの委嘱による熊野古道沿いの万葉歌碑揮毫をはじめ、読売書法展、日本書芸院展、現創会書展に作品を発表し、和歌山県書道界の新星として中央書壇で高い評価を得る。平成18年には日展に初入選、以後10年連続で入選を果たし、今年4月には日展会友に推挙される。

平成16、17年には、これまでの書道と経済活動に関する研究成果を「日本製筆産業の新市場挑戦―書画筆から化粧筆へ―(上)(下)」(『社会科学』第73、74号)として論文を発表。書芸術の理論と技法に関する研究をもとに、和歌山県内のみならず、近畿大学、龍谷大学、京都嵯峨芸術大学などで教鞭をとる一方、母校の同志社大学書道部で指導に当たるなど、関西全般で活躍している。

和歌山県内においては、「春日の森」海南市文化財指定記念事業、紀州古代墨席上書初会審査員を務め、平成25年には公益財団法人大桑教育文化振興財団創立20周年記念式典・祝賀会「雅楽と書道のステージ」において、和歌山雅楽会の演奏とともに書のデモンストレーションを披露するなど、独自の活動を展開している。

氏は同志社大学大学院商学研究科博士課程(後期)単位取得満期退学後、経営史学会、社会経済史学会、市場史研究会、企業家研究フォーラムなど学会に所属し、研究発表を繰り返している。日本商品学会においては理事の要職も務めるなど、書以外の分野でも重要な位置を占めている。

書芸術の技法と理論の融合を独特の発想で追求し、書家として、また教育者として書道文化の向上、発展に大きく寄与しており、今後もより一層の活躍が期待されている。

■現 在

書家
日展会友
近畿大学非常勤講師
龍谷大学非常勤講師
同志社大学人文科学研究所嘱託研究員
同志社大学書道部講師

◆主な表彰歴等

平成18年 日展入選（以後連続入選）
平成18年 現創会賞
平成20年 大桑文化奨励賞
平成27年 和歌山県美術展覧会最優秀賞